

第10回SICFグランプリアーティスト 酒井 翠『にっき』展

2009年10月29日(木)～11月3日(火・祝)
ショウケース(スパイラル1F)

スパイラルは、第10回SICF(スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル)のグランプリ受賞者酒井 翠による展覧会『にっき』展を2009年10月29日(木)から11月3日(火・祝)までスパイラル1Fショウケースで開催いたします。これはクレヨンと音声を使い、アーティスト自身の日々を日記として立体的に紹介する色彩豊かなインスタレーションです。

コンセプトを逸脱し自由に踊りだす身体とクレヨン

酒井 翠は、8月の絵日記を、それを描くために使用した12色入りのクレヨン31箱で表現したインスタレーション「えにっき 08/01～08/31」でグランプリを受賞しました。ピンクのクレヨンばかりが短くなった日、12色が一様に減っている日。酒井は、「残されたクレヨンから、作家が過ごした一日を鑑賞者に想像させる」というコンセプトから本作品の制作をスタートしました。ところが、日々、絵日記を描くという連続した行為を繰り返すうち、いつの間にかクレヨン上に絵を描いてみたり、連続するクレヨンで物語を語ってみたり…。クレヨンは、コンセプトを置いてきぼりにして一人歩きを始めます。

この作品は、「本来のコンセプトが、行為を通じて次第に変容していく」さまを表現しています。

SICFでは、色とりどりのクレヨンがリズムカルに配置された作品の美しさに加え、幾層にも重なり鑑賞者を作品世界に引き込む巧妙なコンセプトが高く評価されました。

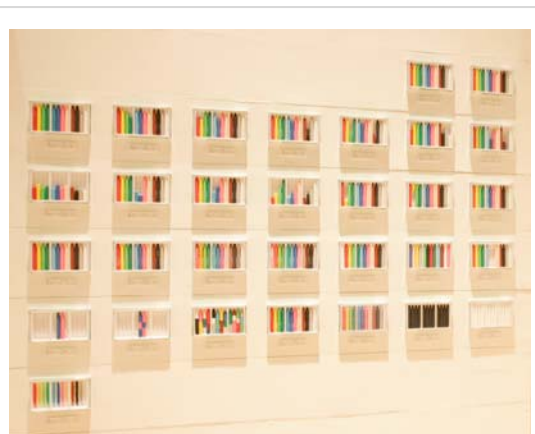
「えにっき」と「こえにっき」、 同時進行の2つのプロジェクトに挑戦

今回の展覧会では、「えにっき 08/01～08/31」の期間を3か月に延長した発展型である「えにっき 08/01～10/31」を発表、同時に、これまでの作品の中でも作家が目撃してきた「声」を扱った新作「こえにっき 08/01～10/31」を展開します。「こえにっき」は、「えにっき」と同じく8月1日から10月31日までの92日間にわたって制作。

SICF は、スパイラルが若手クリエイターの発掘を目的に2000年にスタートしたアートイベントです。第10回SICFは、2009年5月2日～5日にかけてスパイラルホールで開催し、自由な感性で質の高い創作活動を行うクリエイター100組にプレゼンテーションの場を提供しました。

公式HP <http://www.spiral.co.jp/sicf/>

*スパイラルはメンテナンスのため8月9日(日)～16日(日)、全館休館といたします。



酒井 翠 第10回SICF出展作品
「えにっき 08/01～08/31」ミクストメディア
photo: Katsuhiko Ichikawa

毎日録音した作者の声を、ラジカセを使用して会場のさまざまな場所からランダムに流す作品です。体調やその日の出来事によって日々微妙に異なる作者の「声」。そこに記録されているのは、同じ酒井 翠でありながら、92の異なる記憶を内包した異なる人物であるともいえます。連続しているようで、日々異なる作家の「声」はズレながら、また重なりあいながら会場を満たしていきます。

作家が描いた絵日記の痕跡として残された92箱の「クレヨン」と、ラジカセに録音された92の「声」。本展では、この異なるメディアで綴られた92日間を、二つのレイヤーで立体的に構築します。また、「えにっき」「こえにっき」は、10月31日に完成するため、予測不能な要素を孕んだまま、制作は展覧会会期中もリアルタイムで進行します。完成度の高いプレゼンテーションと、制作過程で生じるコンセプトのズレさえも包含した自由な作品世界がこの秋スパイラルで展開します。

この機会に是非取材をご検討くださいますようお願いいたします。

取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。
スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部
加藤美穂、清水さえみ、四元朝子(よつもと とこ)
TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23
E-mail press@spiral.co.jp <http://www.spiral.co.jp/>

作家コメント

なにかが連続すること、羅列されることの単純な美しさと魔力や、運動/行為とそのリズムがそれ自身の加速度的/突然変異的なエネルギーにより、そこにあるロジックやルールからずれていく様、逸脱していく様が好きです。本展では、同じようで違い、違うようで同じ 92 日の間に制作された 2 つの作品、絵日記を描いた残りのクレヨンとそのルールから逃げていったクレヨンたちの色彩が踊る「えにつき」と、分裂した自己同士とその先に逃げていく自己が織りなすハーモニーから成る「こえにつき」、それぞれエネルギーを表現します。



Photo: Katsuhiko Ichikawa

PROFILE

酒井 翠(さかい みどり)

早稲田大学第一文学部演劇映像専修卒業。
大学ではサミュエル・ベケット作品を中心に研究。
また、在学中より小劇場を中心に役者として活動する。
2004 年より役者業と並行して、アーティストとしての活動を開始。
ジャンルに囚われず、さまざまな形態の作品を発表している。

【グループ展】

- 2004 年 art-link 2004(K's Green Gallery/日暮里)
- 2005 年 Reading Room 展 (BankART Studio NYK/横浜)
横浜トリエンナーレ 2006(山下埠頭/横浜) * BOAT PEOPLE Association とのコラボレーション
北仲 OPEN! (北仲 WHITE 116 号室/横浜) * BOAT PEOPLE Association とのコラボレーション
- 2006 年 fly! bus! fly!(SUPER DELUXE/六本木)
そこにある水(RAFT/中野)
- 2009 年 第 10 回 SICF(スパイラル/青山)

【その他の展示】

- 2004 年 「ぼくらの記憶は、どこへ消えるのですか?」(於:東京駅近辺の路上)
「素敵な街をつくるのに、一番大切なものはなんですか?」(解体パフォーマンス/於:谷中近辺の路上)
- 2006 年 「地球のために、何をしてあげればいいですか?」39art ver. (アートイベント『39art の日』参加)
「願いごとは、どうすれば叶いますか?」(メールアート、個人宅に郵送)

●参考 舞台・映像作品 出演(抜粋)

- 2000 年 口遊階級第 10 回公演 『トオアサ』主演(こまばアゴラ劇場/駒場東大前)
- 2002 年 菱沼康介監督『つづく』主演(第 24 回びあフィルムフェスティバル グランプリ作品)
- 2003 年 劇団 明日図鑑 第 18 回公演『キッチン』(ザ・スズナリ/下北沢)
- 2006 年 月刊口遊第 7 回公演 『そこにある水』主演(RAFT/東中野)

展覧会発表作品 (予定)

「えにつき 08/01~10/31」

第 10 回SICFで発表した「えにつき 08/01~08/31」の 3 か月バージョンです。合計 92 個のクレヨンを用いて、絵日記を表現します。劇作家サミュエル・ベケットの「ゴドーを待ちながら」の二人の登場人物が、ゴドーを待つ間にふと始めた遊びに熱中して次第に「ゴドーを待つ」という目的を見失っていくように、この作品において作家は「絵日記を描いた残りのクレヨンから、鑑賞者にそこに描かれたことを想像させる」という作品本来のコンセプトを逸脱し、クレヨンを使って自由に遊びはじめます。

「こえにつき 08/01~10/31」

会場中いたるところに設置された 92 台のミニラジカセから、「えにつき 08/01~10/31」と同じ制作期間である 92 日間に作家が毎日録音した「今日の日付や曜日、天気」などを語る声がランダムに再生され、重なり合い、空間を満たします。作家がこれまでもいくつかの作品で注目してきた「声」を扱った作品となっており、演劇界出身である自身のバックグラウンドが反映された作品です。

審査員コメント (50 音順・敬称略)**浅井隆 (アップリンク社長、webDICE 編集長)**

過去にあったのか現在もそのようなジャンルがあるのかわからないが、酒井 翠の作品は「プロファイリング・アート」である。現場に残されたものから犯罪者を探り出すプロファイリング。彼女の作品では、作品そのものより作品の痕跡が展示されている。さらに殺人で殺された者が犯人を特定するメッセージを残す「ダイニング・メッセージ」のように、その作品には、もう一人の作者によるメッセージが残されている。ここでは捜査官=鑑賞者の頭脳が試されるのである。

佐藤尊彦 (株式会社ビームス 商品本部 メンズ統括部 係長)

SICF の展示ブースで酒井さんから説明を受けた時点で、受賞の可能性を高く感じ、ニヤニヤしている自分がいました。コンセプトは十分に面白く、展示は美し過ぎるほど上手くまとまっていた。今後の課題は“インパクト”。表現においてそれは重要な要素です。美はこの世に数え切れないほど存在しますが、心に響き、残る美しさは“突き抜けたモノ”か、“少量の毒を配合されたモノ”です。例えば、それらは非日常的なアプローチなどによっても齎されます。でも、彼女ならば出来ると思います。10月の展示では、「えにつき」のグレードアップ版に加え、聴覚にも訴える新作が登場するとの事。今度は、ビックリニヤニヤさせて下さい。期待しています。

南條史生 (森美術館館長)

この作品は、一日ごとに絵日記を書くという行為を、作品に形象化したものだ。当初は、素描に使ったクレヨンボックスを保存し、それを行為の証として保存する意図だった。しかし、そのプロセスから、興味は次第に箱の中のクレヨンそのもののデザインへと移行し、結果的にはクレヨンの箱そのものの見え方に変化する。それは一種の存在証明であり、実存への希求である。きわめて緻密な集中力と、その集中力の結果生じてくる思考の発展過程を、ポップでカラフルな作品に結晶している。これはポップでコンセプトチュアル、変化する現象と行為の痕跡の奇妙なコラボレーションだ。次回は、この概念を発展させ、自身の声と組み合わせで発表するという。メディアにこだわらず、自由に素材と技術を涉猟し、交歓するその創造性に期待したい。

ひびのこづえ (コスチュームアーティスト) * 第10回SICFゲスト審査員

SICF の審査は公開中の会場で行われるので、その雑踏に気持ちを集中させるのに努力がいる。でも酒井 翠の空間は静かだった。懐かしいクレヨンが色んな組み合わせを変えて並べられている。絵を描く為のクレヨンは、そのクレヨンの減り方や色の集め方で色んな絵を想像させるのか。それ程単純でもないらしい。ただ作品に向かったとききれいだなと思った。弱々しく見えて強い、素直で頑固、単純であって複雑、そして見る側の心は静かになる。素敵な空間。

岡田勉 (スパイラル チーフキュレーター)

記念すべき 10 回目を迎えたSICFのグランプリは酒井さんの『えにつき 08/01~08/31』に決まった。毎回約 100 組のアーティスト達が出展し、その技術やコンセプトや創造性を競い合う。こうした時に有利なのは明瞭なコンセプトやメッセージ、そして、強さ、インパクトである。しかし、今回はこの弱々しくも美しいインスタレーションに決した。ともかく、コンセプトのレイヤーが広く深く用意されており、またそこに鑑賞者の経験や思い出までもを包含しようとする、実に懐の深い作品。オムニバスで綴られる演劇のようである。10月に行われる個展会場は通りに面したスパイラルのエントランスという、極めてアートのでない場で展開される。そこで如何なるトリックが用意され、我々が美しい罠の虜にさせられるのか、今から実に楽しみである。

過去作品

「それ、はね」シリーズ

「それ、はね」は、“本”のアートとしての可能性について思考しながら、1つの質問に108の回答を羅列するという形式のコンテンツを、さまざまなメディアに載せ、既存の形式に捉われない本として発表しているシリーズです。酒井 翠はこのシリーズでこれまでに7つの作品を発表しています。

004 「人はなぜ服を着るのですか？」

シリーズ第4弾となる本作品では、アパレルショップ用の大型ハンガーラックに、コートから下着まで、酒井 翠の108枚の服が掛けられています。それぞれの服には、「ひとはなぜ服を着るのですか？」という質問に対する回答の一つが書かれた下げ札と通し番号の振られた下げ札、本人がその服を着ている写真が、通常価格札やショップのロゴ札がつりさげられている場所に、書籍用のスピン(しおり紐)でつりさげられており、読む人は欲しい服を探しているかのように、この巨大な本を、ページを一枚ずつめくりながら読み進めます。



006 「酒井さんですか？」

クラブで開催されたアートイベントを舞台に展開したパフォーマンスです。会場に入場する際に、来場者は一枚のカードを受付で渡されます。このカードには「酒井さんですか？」というひとつの質問に対する回答が書かれており、会場内で誰かに「酒井さんですか？」と聞かれたらその回答を答えるように指示されています。このカードは107種類あり、会場内の人は皆違う回答を手に入れています。来場者は皆、答えるばかりでなく、自身もいろんな人に「酒井さんですか？」と尋ねることによって、様々な回答を知っていきます。また、実際に酒井 翠本人も会場内におり、実際の酒井に「酒井さんですか？」と尋ねることが出来た人は、108個目の回答を酒井から聞き、そして108種類の回答が羅列された小さな本を手に入れることができます。

このようにして、来場者は『酒井さんですか？』という一冊の大きな本を、酒井を探しながら、そしてたぐさんの知らない人たちと出会いながら読んでいくことになります。また同時に、自身もその本において重要な一部を担うことになります。そうして、来場者は酒井と酒井が持つ小さな本に辿りつくために、小さな本を内包する大きな本を読み進めることになります。



開催概要

第10回SICFグランプリアーティスト 酒井 翠『につき』展

会 期	2009年10月29日(木)～11月3日(火・祝) 11:00～20:00 無休 ※28日(水)20:00よりオープニングパーティを開催		
会 場	ショウケース (スパイラル 1F)		
お問い合わせ	03-3498-1171(スパイラル代表)		
主 催	株式会社ワコールアートセンター	企画制作	スパイラル

SICF11 参加クリエイター募集日程が決定！

2010年5月2日(日)～5月5日(水・祝)に開催するSICFの参加クリエイター募集日程が決定いたしました。2000年よりスタートし、2009年に10周年の節目を迎えたSICF。来年度よりイベント名を「SICF11」に一新し、美術、デザイン、ファッション、音楽、映像、CGなどあらゆるジャンルから次代のカルチャーシーンを担う若き才能を募集いたします。

- 募集要項配布開始 2009年10月29日(木)
- 公募期間 2009年12月1日(火)～2010年2月28日(日)
- *SICF11開催日程 2010年5月2日(日)～5月5日(水・祝)

最新情報はSICF公式 HP(<http://www.spiral.co.jp/sicf/>)で随時お知らせします。